

危機に直面した職業についての声明文（第二版）

「報道記者という職業が危機に面している。メディア所有者の利益により報道が単なる営利目的のためだけに行なわれるならば、我々は過度の営利主義に陥ることになるだろう。また、報道記者を掌握している権力者が自らの利益のために、報道内容を選択したり、その信憑性を確かめる権利をジャーナリストから奪い取り、自らがジャーナリストに成り代わってさえいる。最近では、デジタル技術やグローバル化の影響によっても危機を被っている。おおむね先進国のどんな種類の個人や団体もが演説者になって公共の場で演説をまき散らすことができ、信憑性を確認せずにあらゆる種類の情報が無差別に出回っているインターネットではだれもが自由に情報にアクセスすることができるためである。その結果、最も迷惑を被るのは市民であり読者である。

独自の見解を持ち、好奇心旺盛で、熱心かつ厳しく、多かれ少なかれ自由である、そういった報道記者のイメージが薄れてきている。何よりも先に、まず読者の利益を守ろうとする記者が減少しているのだ。ジャーナリストとしての責任を忘れず、報道記者という職業を保護しつつ、この傾向を打開していかなければ、後に修復不可能なものになってしまうだろう。信頼性のあるツールを用いて個人の意見を自由に述べられることを熱望しながら、デジタル時代が提案する持続可能性に適応することも必要である。そのため、インターネット上のいかなる種類や状況のメッセージ、カムフラージュの危険や、扇動者や普及者の不透明さの前に、興味深いメッセージのみを伝達し、無秩序を避け、ジャーナリズム活動を不可欠なものとしなければならぬ。これからのジャーナリズムを信用に足るものとし強化するには、有用性、経験誠実さ、正確さ、有効性や信頼に基づく品質が求められる。我々の領域への侵略や信頼性のある伝達システムに不可欠であるジャーナリズムという職業の漸進的な衰弱を放っておくと、多かれ少なかれ、社会全体の民主的アプローチの強化をも放棄しなければならないことになるだろう。」

危機に直面した職業

「報道記者という職業は危機に直面している。メディア所有者の影響力によって、報道が単なる営利目的の商売へと変化させられ、不均衡な営利主義へと近づいているのだ。また、報道記者を掌握している権力者の勢力によって、報道内容の信憑性を確かめる時点でも影響が生じ、時にこういった権力者が、報道記者の真の仕事のあり方を妨げている原因となっているのである。結果、最も迷惑を被るのは読者だ。

自身の展望を持ち、好奇心旺盛で、熱心かつ厳しく、多かれ少なかれ自由である、そういった報道記者のイメージが薄れてきている。何よりも先に、まず読者の関心を見守ろうとする記者が減少しているのだ。ジャーナリストとしての責任感を抱き、報道記者という職業を保護していかなければ、後に修復不可能なものとなってしまいうだろう。こういった状況を蔓延させたままで、信頼性のある伝達システムに不可欠である専門的な部分を衰弱させておくと、多かれ少なかれ、社会全体的な民主的アプローチの統合をも放棄することになるだろう。」

ジョアキム・マリア・プジャル

「カタルーニャ報道記者協会」抜粋
2006年11月14日 バルセロナにて